



① かんがえる
 ② かんばる
 ③ やさしく
 ④ きたえる

時津町立鳴鼓小学校
学校だより R6年度第16号

令和7年3月5日
文責：校長 今井大輔

CS清掃 2回目実施！

「コミュニケーションスクール」の取組である「掃除時間の見守り活動」の第2回目を先日実施いたしました。火曜日と木曜日の計4回で、延べ70名もの地域や保護者の方々に協力いただきました。今回は、子供たちの安全確保のため、校内の複数箇所で見守り活動を行っていただき、その15分間を教員の学級事務の時間に充てさせていただきました。活動初日、地域の方から「たった15分で先生方は何かできるのですか？短すぎるのでは？」という質問をいただきました。確かに、15分という時間は短いかもしれませんが、しかし、私たち教職員にとって、この15分は非常に貴重で、大きな意味を持つ時間なのです。日々の学校生活では、子供たちの前でできる業務と、そうでない業務があります。また、他の教職員との打ち合わせや、心の相談員、教育支援員との情報交換など、時間を調整しなければできない業務も多々あります。そうした中、15分という時間を確保できたことで、教育の質を高めたり、より効果的な支援を行うための準備に充てたりすることができました。

来年度の2学期からは、この活動を週に一度、定期的に実施する予定です。長崎県内でも初の試みとして注目されているこの取組が、どのような効果や成果を生み出すのか、今から楽しみにしております。今後も、保護者や地域の方々との連携を深め、子供たちの健やかな成長を支えていきたいと考えております。皆様の温かいご理解とご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

びわの木の手入れ作業



は、上左底の畑をお借りし
収穫などの体験活動を行っ
ています。昨年度からそこ
その実がなるようになり
ました。左底の荒木さんと
坂本さんが、木が横に伸び
るように手入れをしてくだ
さいました。後2、3年で、
学校内で活動ができるので
はないかと思っています。

感謝の気持ちを伝える

寒さ厳しい日も、また暑い日も、子供たちの登下校を毎日温かく見守ってくださる「見守り隊」の皆様、そして地域の宝である銭太鼓浮立を熱心に教えてくださる地域の皆様をお招きし、「学校サポーター感謝の会」を開催しました。

「日頃お世話になっているサポーターの皆さんに、どうしたら喜んでいただけるだろうか。」子供たちは、このテーマについて熱心に話し合い、心を込めて準備を進めてきました。そして、昔遊びを通して交流を深めるといふ素敵なアイデアが生まれまし

当日は、「あやとり」「お手玉」「カルタ」「ヨーヨー」「けん玉」「おはじき」「折り紙」「メンコ」「だるま落とし」「コマ回し」という、子供たち自身が選んだ10種類の遊びのコーナーを設けました。サポーターの皆様に参加の方を教えていたり、一緒に遊んでいたたりする中で、子供たちの笑顔が輝き、会場は温かい交流の輪で包まれました。



自分自身の幸せ（ウェルビーイング）を追求することも大切ですが、誰かの幸せを願い、行動することは、それ以上に私たちの心を豊かにしてくれます。今回の感謝の会は、「サポーターの皆様に喜んでいただきたい」という子供たちの純粋な思いから生まれたものでしたが、子供たち自身もサポーターの皆様との交流を通して、大きな喜びと学びを得ることができました。

誰かのために行動し、共に喜び合える。そのような心優しい「鳴鼓っ子」として、今回の経験を通じて、これからも成長していくてくれることを願っています。

しんちん

2024年の世界幸福度ランキングで、日本は51位であった。豊かな暮らしを送れる国であるにもかかわらず、この順位は少し残念である。なぜ、私たちは幸福を感じにくいのだろうか？

日本は、不自由なく便利な物であふれてゐる。海外旅行に行くことも安全で、道徳性もあり親切である。しかし、なぜか幸福度は低いのである。経済的な豊かさとは幸福度は必ずしも一致しないのかもしれない。

また、私たちは便利で快適な生活に慣れてしまひ、日々の小さな幸せに気づきにくくなつてゐるのかもしれない。病氣になつた時、健康のありがたみを実感するやうに、失つたり、不便を感じたりした時に、私たちは初めて「幸せ」に気づくものである。

ある宗教では、週に1度、断食や質素な食事をするこゝで、日々の恵みに感謝し、幸福を感じてゐるやうである。私たちも、日々の生活の中で、当たり前だと思つてゐることに感謝の氣持ちを持つことで、幸福度を高めることができるのではないかとと思う。

小さな喜びに目を向け、感謝の氣持ちを育むこと。それは、子供たちにとつても、私たち大人にとつても、大切なことだと思ふ。この1年「ウェルビーイングの向上」を考えてきて、日々実感したことでもある。

通学路について

ブル裏のり面工事に伴い、1年ほど前から裏階段の通学路を閉鎖しておりました。第2期工事が数か月後に再開します。下校時に死角になつてしまうことや下り階段で起こっていたけが防止など、子供たちの安全面を考慮して、現在の通り、鳴鼓坂を通路として使用していきたくないと考えております。

みんなちがって みんないい～（R6その3）

～共生社会をめざして～

今回は「発達障がい」の一つであるASD（自閉スペクトラム症）についてお伝えします。

ASDは、ADHD（注意欠如・多動症）と並んで、比較的によく知られる発達障がいです。主な特性として、「対人関係の困難さ」と「強いこだわり」が見られます。

対人関係の困難さ

- ・場の空気を読むことが苦手で、相手の表情や言葉のニュアンスを理解しにくいことがあります。
- ・冗談を真に受けてしまうなど、言葉を文字通りに受け取る傾向があります。
- ・これらの特性から、人間関係がうまくいかず、孤立してしまうことがあります。

強いこだわり

- ・特定の物事への強い興味関心、または特定の行動パターンへの固執が見られます。
- ・興味の対象が偏ったり、特定のルールに強くこだわったりすることで、日常生活に支障をきたすことがあります。
- ・例えば、興味のある電車の名前を全て暗記したり、毎日同じ道順でなければ気が済まなかったり、偏食が見られたりします。
- ・こだわりが強すぎるあまり、学校や社会のルールを守ることが難しく、心身ともに疲れてしまうことがあります。

また、これらの特性に加え、音や光、触覚などの感覚過敏を持つお子さんもいます。感覚過敏は、日常生活における強いストレスにつながる場合があります。

ASDのお子さんは、社会生活を送る上で困難を感じることがありますが、その特性は長所にもなり得ます。

ASDの長所

- ・非常に強い集中力や記憶力を持ち、特定の分野で才能を発揮することがあります。
- ・細部にまで注意を払うことが得意で、緻密な作業に向いています。
- ・裏表がなく誠実で、規則や約束を重視するため、周りからの信頼を得やすい傾向があります。
- ・独特な視点や創造性を持ち、型にはまらない発想や独創的なアイデアを生み出すことがあります。

ASDのお子さんへの支援

ASDのお子さんへの支援は、学校と家庭が連携して行うことが大切です。

学校での支援

- ・お子さんの特性やニーズを把握し、個別の教育支援計画を作成します。
- ・感覚過敏への配慮や、視覚的な支援を行います。
- ・特別支援学級や通級指導教室などを活用し、コミュニケーション能力や対人スキルを身につけるトレーニングを行います。

家庭での支援

- ・安心できる環境づくり：整理整頓された環境を整え、規則正しい生活リズムを確立します。
- ・視覚的な支援の活用：スケジュール表や絵カードなどを活用し、お子さんの理解を助けます。
- ・肯定的な関わり：良いところを積極的に認め、褒めることで、自己肯定感を育みます。

ASDのお子さんの支援は、根気強く継続することが大切です。焦らず、お子さんと楽しみながら関わっていくことが重要です。ご心配なことやご不明な点がございましたら、遠慮なく学校までご相談ください。

※参考文献 「発達障害大全」 著者 黒板真由子
(文責 特別支援C o 山下 健一)